令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	きびたき長井甦るの会		
事業名	甦るプロジェクト		
助成事業区分	協働助成事業(一般型)【自由提案部門】		
団体の所在市町村	長井市	事業費	527,694 円
		うち助成金額	500,000 円
事業実施期間	令和７年６月 13 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

山形県には避難者が2月1日現在1,159名暮らしている。避難者支援は減少しているが、長期避難による問題の個別化、多様化している。避難者の自立を促進し、コミュニティの再構築を図ることは、喫緊の課題だ。

この事業は、福島県への帰還者・山形県で暮らす避難者を対象とし 酒米づくりの農業体験・交流会を行い、自分たちの「酒造り」を通して生きがい・つながりづくりを行う。当団体の主力メンバーは避難者を中心に構成しており、当事者の強みやネットワークを活かす。避難者が収穫の喜びを体験し、酒づくりを通して福島県・山形県の地域を超えた交流を行う。この事業は置賜地区を中心に活動しているが、まだ県内には多数の避難者がいるので、山形県全域に広める。〞年間を通して酒米づくり・農業体験実施。田植え・草取り・稲刈り・天日干し等を昔ながらの手作業で行う。作業後には暮らしに関する意見交換をかねた交流会を実施。避難者サポートとして、生活の中で感じる良いこと・うまくいかないこと、楽しみや悩みなどを話す場を作り対話の場づくりをおこなう。できた酒米は福島県浪江町から山形県長井市に移住した鈴木酒造長井蔵が酒造りを行い、「甦る」と命名し東日本大震災発生日の3月11日販売開始する。

（実施内容）

1. 草取り交流会：7月5日（土）、田んぼ（さわのはなファーム）で13:00～15:00まで、昔ながらの手作業で草取りの農業体験を行いました。作業後は交流会を開催。26名参加
2. 稲刈り交流会：9月20日（土）、田んぼ（さわのはなファーム）で稲刈りの農業体験を予定しましたが、前々日からの雨の影響で田んぼに入ることができず、稲の生育状況の説明を受けた後、会場を移して、鈴木大介共同代表が水の話、お酒に関する話、村田孝共同代表が山口洋さんやレインボープラン市民農場との関わり合いについて講演会を13:30～15:30まで行いました。69名参加
3. 芋煮会交流会：10月25日（土）長井市の最上川河川公園いもに広場で行う予定でしたが、強風と寒さの天候不順のため、急遽長井市社会福祉協議会の大広間と中庭を借りて行いました。鍋2つをテラス部分で調理し、中庭にブルーシートを敷いて、芋煮を堪能しました。寒さに弱い高齢の人には大広間でゆっくりして頂きました。１３名参加
4. 新酒仕込み体験交流会：10月30日（木）・31日（金）の2日間、長井市鈴木酒造店長井蔵で新米「さわのはな」で吟醸酒「甦る」の新酒仕込み体験を9:30～14:00まで行いました。お昼時間に交流を行いました。9名参加
5. お菓子作り交流会：2月14日（土）長井市伊佐沢コミセンで純米吟醸甦るの酒粕でお菓子作りを10:00～13:00まで行いました。バレンタインデーに合わせて、酒粕ブラウニー・酒粕生チョコを手作りし、試食をしながら交流を図りました。美味しいね！の言葉があちこちで聞かれました。１１名参加





事業の成果	１．生きがいづくり福島県県外避難者が暮らす地域で、安心し、自立した生活をするための、活力の創出と避難者同士のつながりや地域住民を含むコミュニティの再構築が期待される。また、酒米や酒で福島県と県域を越えたつながりにより、地域の交流が深まった。 ２.事業の実施の中で、減少している避難者のための相談対応も実施した。相談対応の経験を活かし、避難の不安とともにコロナ禍での不安に対応し、重篤な場合は、行政、支援団体と共に課題解決を図ることができた。 ３．避難者が田植えから稲刈りを手作業で行い、酒米を作っていること、避難者の現状や前に向かう取組みをホームページ等に掲載し広く広報することで、山形県民・長井市民、長井市を訪れる観光客などにも案内することで風化を防ぎ、復興事業から観光事業への移行にもつなげる事ができた。
今後の展望	長井市や山形県に住む避難者と共に活動したい、応援したいという県外避難者や山形県内外の住民が農業体験、酒造り体験を通して地域間の交流が作られ、つながりの拡大により関係人口が増加する。 また、避難者支援等のイベントの情報発信と共に、長井市、浪江町の観光資源を紹介し、更なる関係人口拡大につながる。情報発信では、避難を継続している方々の状況を伝えることで、避難者支援の理解へ繋げる。山形県内でも特に置賜地域に避難している方々は高齢化が進み、独居も増えてきた。孤独という課題をこの事業の「地域のつながり」で支えていく。







団体概要

団体名　きびたき長井甦るの会

代表者　共同代表　村田　孝

URL　https://www.kibitaki-nagai.com

原発事故を経験した私たち日本人は、原発がそこで働く労働者の被爆や、一度事故を起こせば広大な土地が汚染され、そこに住む多くの人々や動植物の生活が犠牲になることを体験を通して知ることとなりました。そのうえで、それを糧に行われる真の復興とは誰一人として生活を犠牲にすることのない暮らしと社会を構築することであると考えます。

避難直後、私たちに最大のインスピレーションを与えてくれた長井市レインボープランは台所から出る食料残渣（生ごみ）からコンポストを作り、それを再び農地に投入して市民の台所に安心・安全野菜を届けるという取り組みです。私たちはレインボープランの理念である「循環・共に・土は命のみなもと」を受け継ぐとともに

「No sacrifice(犠牲はいらない)」を理念として付け加えたいと思います。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	甦るプロジェクト
団体名	きびたき長井甦るの会

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	500,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	6,619	芋煮会交流会費　500円×13人＝6,500円 会計時ポイント　119
自己資金	21,075	
合計	527,694	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	102,000	交流会講師料（農業指導、新酒仕込み、お菓子作り）、田んぼ管理料
旅費	7,200	ガソリン代
印刷製本費	48,750	チラシデザイン料、チラシ印刷代
消耗品･材料購入費	83,006	事務用品、稲刈り鎌、草刈り替刃、交流会時の消耗品等
通信運搬費	5,990	チラシ郵送代（レターパック、切手）
保険料	4,900	交流会参加者ボランティア保険
使用料	100,410	会場使用料、会議室賃借料、農機具使用料
人件費	150,000	
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
食糧費	25,438	交流会食糧費
合計	527,694	